

大風 大雪 異常気象で遅れる「春」

24年産稲作り **ようやく** スタート

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

「異常気象」のせいだと言ってしまう。それまでですが、4月3日から4日にかけての強風で、県内各地のビニールハウスなどの農業施設に大きな被害がでてしまいました。稲の播種作業の直前の出来事でしたので、被害を受けた生産者は育苗作業計画を大きく見直さざるを得ないでしょう。破損したハウス資材を撤去するだけでも大変な手間暇ですが、被害件数が余りにも多くて、新たな資材の購入や専門業者の手当てが中々大変だと思いがちです。台風ならば比較的短時間に通り過ぎてしましますが、今回の大風は強い風が長時間吹き続けていたので被害を大きくしてしまっただけです。

平地は大風被害で、山間地は平年に比べて大変に多い残雪の影響で育苗作業を始め、田植え時期も大きな見直しをせざるを得ない生産者の方も多いと思われまます。山間地の降雪量は、最高降雪量そのものは平年に比べて極端に多かつたというデータではなかったはずですが、春先の気温の上昇が遅れて降雪の切上りが悪く、いつまでもダラダラと降り続いたために、雪消えが遅れてしまったのでしよう。

4月8日(日)が町内の神社の春祭りでした。が、宵宮である前日の7日は恒例になつて境内の本殿の雪囲い外しと境内の清掃を、20名ほどの当番で行う予定でした。ところが、境内は真っ白に雪が積もつて、数日前の強風で折れてしまった大きな杉の枝などもすっかり覆い隠されてしまつたため、掃き掃除は取りやめて拝殿の幕の飾り付けや提灯の取り付けだけにしてしまひました。祭り当日は晴天の天気予報だったので安心して報じたのですが、朝目を覚ましてびっくりに、前日以上に多い積雪ではありませんか。結局、長い参道を除雪して雪駄でおいでになる神主をお迎えしました。80代半ばの神主も「雪の中で春祭りをやるなんて覚えがありません」といつておられました。



春一番の作業は種もみの「浸種」ですが、とんでもない失敗をしてしまいました。3日に1回の水交換をやつていますが、2回目、つまり浸種開始6日目に水交換をやるうとしたら、すでに芽切つていたのです。初めての経験ですが理由は簡単です。県農産園芸課作成の「水稻『越淡麗』種子の発芽率低下に伴う育技術対策について」に「発芽揃いを良好にするため浸漬水温は10〜15℃とする。特に浸種初期の低水温(10℃未満)は発芽揃いを悪くするので避ける」と

の一文があつたのですが、水温を17℃位に設定してしまいました。「越淡麗」は発芽しやすい品種であることから浸種は積算温度1000℃をめやすに終了する」とも書かれていたのですが、水温17℃なら6日で積算温度は1000℃になりますので、発芽してしまつても不思議ではありません。越淡麗とこしいぶき等を一緒に浸種しましたので、他の品種も一緒に発芽が始まつてしまひ、播種までの間は残雪で水温を下げて芽の伸びを抑えるという、ばかげたことをやつてしまいました。

当然、有機の種子は別の水槽で従来通りに常温(10℃位)で浸種しましたから、予定どおりの芽だし作業ができました。

《裏面に続く》